

全国理美容開業ランキング レポート ver6

～2025年7月～9月・過去3年間比較～

＜調査方法＞
行政からの開業情報をもとに、
Review独自のクレンジングをおこなったデータより算出

Contents

株式会社Reviewは「人」と「IT」のチカラを組み合わせ、全国の店舗データおよび法人データを独自で、収集・整備・提供しているデータプロバイダーです。

日々データを更新、圧倒的な網羅性とリアルタイム性がございます。
そんな弊社ならではの、全国の理美容店に関する調査結果を発表いたします。

理容所・美容所開業ランキング 2025年7月～9月

全国理美容開業数ランキングTOP5	…P4
全国理美容開業数ランキング(合計)	…P5
【理容所】月別 全国理美容開業数ランキング	…P6
【美容所】月別 全国理美容開業数ランキング	…P7
消えた開業数の行方——8月に何が起きていたのか	…P8
見えてきた地域差——開業時期シフトのもう一つの側面	…P9
東京はなぜ崩れなかったのか——開業データが語る都市の底力	…P10～11
【コラム】再評価される理容師・美容師	…P12

理容所・美容所 2023年～2025年 7月～9月 過去3年開業数比較

全国理美容開業数ランキング/2023年～2025年	…P14
【理・美容所別】全国理美容開業数ランキング/2023年～2025年	…P15
見えてきた時間構造——2025年の開業減少はいつ起きたのか	…P16
全国減少の裏側——地方都市が押し下げた開業数	…P17
全国減少の裏側——地方都市が押し下げた開業数	…P18

全国理美容開業ランキング レポート ver6 まとめ

開業数の変化から見える、理美容市場の地域構造	…P20
理美容業界は、静かに次の時代へ進んでいる	…P21

理容所・美容所開業ランキング 2025年7月～9月



全国理美容開業数ランキングTOP5

揺れる開業数、その裏側にある地域構造とは—

2025年の理美容業界では、年初の開業減少など、例年とは異なる動きが見られました。全国で開業数が揺れる一方、都市と地方では動向に違いが現れ、地域ごとの市場構造が改めて浮かび上がっています。

本レポートでは、2025年7月～9月の全国開業データを中心に、過去3年のデータと比較しながら地域別の動向を分析し、理美容業界の現在地と、その先に見える市場の変化を読み解きます。

まずは、2025年7月～9月の全国理美容店開業数ランキングを発表いたします。開業数合計トップ5には、以下の都道府県がランクインしています。



1位
東京都

1位 東京都(186件)

全国最大の市場で、トレンド発信型・特化型サロンが集積。SNS集客が主流で競争は激しい。



2位
大阪府

2位 大阪府(116件)

心齋橋・梅田を中心にトレンド型サロンが集積。カラー・韓国風・メンズ特化などデザイン系サロンも多い。



3位
福岡県

3位 福岡県(73件)

九州の中心都市として若年層需要が高く、新業態やトレンド型サロンが生まれやすい。



4位
神奈川県

4位 神奈川県(72件)

横浜・川崎を中心に都市型サロンが集積。東京近接のベッドタウン需要も大きい。



5位
千葉県

5位 千葉県(50件)

住宅都市として生活密着型サロンが多く、地域需要に支えられた出店が中心。

全国理美容開業数ランキング(合計)

2025年7月～9月の全国の理美容開業数ランキングは以下のような結果となりました。

2025年7月～9月 全国開業件数 **1155件**

理美容 / 2025年7月～9月						
		都道府県	開業数			
	全国		1155	24	鹿児島県	15
1	東京都		186	25	山形県	14
2	大阪府		116	26	熊本県	14
3	福岡県		73	27	香川県	13
4	神奈川県		72	28	福島県	12
5	千葉県		50	29	京都府	12
6	埼玉県		46	30	秋田県	11
7	北海道		43	31	石川県	11
8	兵庫県		43	32	和歌山県	11
9	愛知県		40	33	岡山県	11
10	岐阜県		25	34	愛媛県	11
11	静岡県		24	35	山口県	10
12	宮城県		23	36	滋賀県	9
13	広島県		23	37	宮崎県	9
14	茨城県		21	38	徳島県	8
15	栃木県		20	39	佐賀県	8
16	群馬県		20	40	山梨県	7
17	新潟県		19	41	青森県	6
18	沖縄県		19	42	鳥取県	5
19	長野県		17	43	岩手県	4
20	三重県		17	44	富山県	3
21	長崎県		16	45	福井県	3
22	大分県		16	46	島根県	3
23	奈良県		15	47	高知県	1

【理容所】月別 全国理美容開業数ランキング

次に、理容所における2025年7月～9月の、月別の全国開業数を比較してみます。
結果は以下の通りです。

理容所 / 2025年7月～9月				
都道府県	3か月合計	2025年7月	2025年8月	2025年9月
全国	129	42	45	42
1 東京都	16	4	6	6
2 北海道	12	5	4	3
3 大阪府	12	2	3	7
4 沖縄県	8	4	2	2
5 兵庫県	7	3	0	4
6 福岡県	7	4	2	1
7 茨城県	6	2	0	4
8 千葉県	6	2	3	1
9 埼玉県	4	0	4	0
10 神奈川県	4	1	2	1
11 広島県	4	1	3	0
12 熊本県	4	1	2	1
13 愛知県	3	2	1	0
14 宮崎県	3	1	0	2
15 宮城県	2	0	1	1
16 福島県	2	1	1	0
17 群馬県	2	0	1	1
18 新潟県	2	2	0	0
19 山梨県	2	0	2	0
20 岐阜県	2	2	0	0
21 静岡県	2	1	1	0
22 山口県	2	0	0	2
23 長崎県	2	2	0	0
24 大分県	2	0	1	1
25 青森県	1	0	1	0
26 山形県	1	0	0	1
27 栃木県	1	0	0	1
28 三重県	1	0	1	0
29 京都府	1	1	0	0
30 和歌山県	1	0	1	0
31 島根県	1	0	0	1
32 岡山県	1	0	1	0
33 徳島県	1	0	0	1
34 香川県	1	0	1	0
35 愛媛県	1	0	0	1
36 高知県	1	1	0	0
37 鹿児島県	1	0	1	0
38 岩手県	0	0	0	0
39 秋田県	0	0	0	0
40 富山県	0	0	0	0
41 石川県	0	0	0	0
42 福井県	0	0	0	0
43 長野県	0	0	0	0
44 滋賀県	0	0	0	0
45 奈良県	0	0	0	0
46 鳥取県	0	0	0	0
47 佐賀県	0	0	0	0

【美容所】月別 全国理美容開業数ランキング

さらに、美容所における2025年7月～9月の、月別の全国開業数を比較してみます。
結果は以下の通りです。

美容所 / 2025年7月～9月					
	都道府県	3か月合計	2025年7月	2025年8月	2025年9月
	全国	1026	386	275	365
1	東京都	170	53	59	58
2	大阪府	104	33	25	46
3	神奈川県	68	26	23	19
4	福岡県	66	17	21	28
5	千葉県	44	12	16	16
6	埼玉県	42	21	13	8
7	愛知県	37	13	7	17
8	兵庫県	36	13	6	17
9	北海道	31	14	8	9
10	岐阜県	23	10	6	7
11	静岡県	22	7	7	8
12	宮城県	21	8	7	6
13	栃木県	19	9	3	7
14	広島県	19	9	3	7
15	群馬県	18	8	5	5
16	新潟県	17	5	3	9
17	長野県	17	7	1	9
18	三重県	16	9	3	4
19	茨城県	15	3	0	12
20	奈良県	15	4	6	5
21	長崎県	14	8	3	3
22	大分県	14	7	1	6
23	鹿児島県	14	5	4	5
24	山形県	13	4	3	6
25	香川県	12	6	1	5
26	秋田県	11	6	1	4
27	石川県	11	7	3	1
28	京都府	11	4	4	3
29	沖縄県	11	6	3	2
30	福島県	10	6	3	1
31	和歌山県	10	4	2	4
32	岡山県	10	4	2	4
33	愛媛県	10	6	1	3
34	熊本県	10	6	1	3
35	滋賀県	9	4	3	2
36	山口県	8	3	4	1
37	佐賀県	8	3	3	2
38	徳島県	7	3	3	1
39	宮崎県	6	4	0	2
40	青森県	5	2	2	1
41	山梨県	5	1	0	4
42	鳥取県	5	1	3	1
43	岩手県	4	2	1	1
44	富山県	3	1	1	1
45	福井県	3	1	1	1
46	島根県	2	1	0	1
47	高知県	0	0	0	0

美容所においては、**8月の開業数が顕著に減少**しています。
次ページから、なぜこのような結果になったのかを考えていきます。

消えた開業数の行方——8月に何が起きていたのか

美容所を中心に顕在化した8月の開業減少の実態

2025年7月～9月の理美容所開業動向を確認すると、8月において全体の開業数が減少していることが分かります。特にこの減少は理美容全体の動きというよりも、美容所において顕著に現れている点が特徴です。

本章では、この美容所における8月減少の要因について分析し、その背景にある構造的な要因を整理します。



《推察》 カレンダー要因による開業時期シフトの影響

2025年8月の美容所開業数は、月次データおよび都道府県別推移の分析から、単純な需要減少ではなく、開業時期の後ろ倒しによる影響が大きいと考えられます。

2025年は、お盆期間(8月13日～15日)が平日に集中し、かつ土日と連続するカレンダー配置となっており、行政手続きや内装工事の進行が一時的に停滞しやすい環境にありました。

この結果、開業スケジュールの調整が発生し、**8月予定の開業が9月へシフトした可能性が高い**と推察されます。

実際に、2025年における8月・9月合計に占める9月の構成比は57%と過去3年間で最も高く、複数の都道府県において8月の減少と9月の増加が同時に確認されています。

以上より、2025年8月の開業数減少は一時的な需要縮小ではなく、**カレンダー要因および実務的制約に起因する開業時期の後ろ倒しによるもの**と位置づけられます。

【過去3か年比較】 美容所 月別開業数と8月→9月シフトの比率

年	7月	8月	9月	合計(7-9月)	8月+9月合計	9月比率(8-9月内)
2023	366	408	388	1162	796	48.70%
2024	439	364	376	1179	740	50.80%
2025	386	275	365	1026	640	57.00%

出典:Review独自データ

見えてきた地域差——開業時期シフトのもう一つの側面

《分析》 地域別に見る開業減少の影響度

2025年7月から9月の開業動向を総合影響度で分析したところ、少し意外な結果が見えてきました。

大阪府、兵庫県、愛知県などの大都市圏（首都圏を除く）および、茨城県や長野県といった地方中核都市において、8月の開業減少と9月の回復が顕著に確認されました。



これらの地域では、開業需要の減少ではなく、8月を避けて9月へと開業時期を調整する動きが強く現れています。

一方で、東京都をはじめとする首都圏では同様の傾向は見られず、むしろ8月においても開業が維持、あるいは増加するなど、異なる動きを示しています。

このことから、2025年8月の開業減少は、**主に首都圏以外の大都市および地方都市において発生した「開業時期のシフト」**であり、地域ごとの市場環境や開業余力の違いがその背景にあると考えられます。

【2025年】美容所 総合影響度ランキング

順位	都道府県	総合影響度	推移(7→8→9月)
1	大阪府	29	33 → 25 → 46
2	兵庫県	18	13 → 6 → 17
3	愛知県	16	13 → 7 → 17
4	茨城県	15	3 → 0 → 12
5	長野県	14	7 → 1 → 9
6	大分県	11	7 → 1 → 6
7	広島県	10	9 → 3 → 7
7	栃木県	10	9 → 3 → 7
9	香川県	9	6 → 1 → 5
10	新潟県	8	5 → 3 → 9
10	秋田県	8	6 → 1 → 4

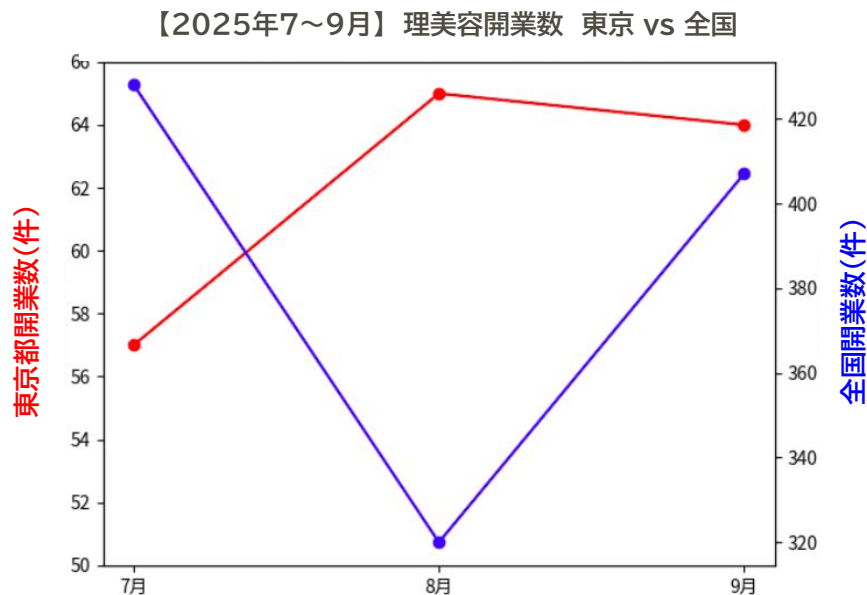
※「総合影響度」は、計算式(7月 - 8月)+(9月 - 8月)を用いて算出。つまり、「7月から8月にどれだけ落ちたか」と「8月から9月にどれだけ戻ったか」を合算した値です。

東京はなぜ崩れなかったのか——開業データが語る都市の底力

東京が比較的安定していた背景

2025年7月～9月の理美容開業数を地域別に見ると、全国では8月に急激な減少が確認される一方、東京都では比較的安定した推移が見られます。

全国の開業数が7月:428件から8月:320件へと約25%減少したのに対し、東京都では7月:57件から8月:65件へと増加しており、他地域とは異なる動きが確認できます。



こうした違いが生じた背景として、東京都にはいくつかの構造的特徴があると考えられます。

《東京都の構造的特徴》

- ① 美容需要の安定性
- ② 「新規開業」にとられない働き方の普及
- ③ 投資資金の集中

次ページにて、それぞれの特徴を詳しく見ていきましょう。

東京はなぜ崩れなかったのか——開業データが語る都市の底力

① 美容需要の安定性

東京都は人口規模が国内最大であることに加え、昼間人口や観光客数も多く、美容サービスの**需要基盤が非常に大きい地域**です。

一方、地方では人口減少に伴って美容需要が縮小しやすく、それが開業数の減少につながるケースも少なくありません。東京都では需要の規模自体が大きいいため、景気や人口動向の影響を受けにくく、開業数の変動も相対的に小さくなる傾向があります。

人口・昼間人口・観光客がすべて最大 = 美容需要の底が深い

② 「新規開業」にとらわれない働き方の普及

東京都ではフリーランス美容師の増加に伴い、**面貸しサロンやシェアサロン**といった形態が早くから広がっています。こうした環境では、独立する美容師が必ずしも自ら美容所を新規開設する必要はなく、既存の施設を利用して営業を行うことも可能です。

その結果、「**独立＝開業**」という**従来**の構造が**変化**しており、独立者の増減がそのまま開業数の変動に結びつきにくい構造が形成されていると考えられます。

「独立＝新規開業しない」という構造がすでに成立

③ 投資資金の集中

美容室の開業は個人資金や金融機関からの融資によって行われるケースが多いものの、東京都では**美容関連企業や投資家による出店**も比較的多く見られます。

地方では個人による開業が中心となる傾向がありますが、東京都では**法人による出店**も一定数存在するため、景気環境の変化に対する耐性が相対的に高いと考えられます。

投資家・美容グループの資本も多い＝法人出店が多い ⇒ 不況耐性が高い

これらの要因を踏まえると、東京都では市場構造の違いによって、比較的安定した動きが維持されている可能性が示唆されます。

【コラム】再評価される理容師・美容師

コロナ禍の影響により一時的に減少していた理容師・美容師の志願者数や国家試験合格者数は、近年回復し、現在ではコロナ前の水準を上回る動きも見られています。

なぜ理美容人材は再び増加しているのでしょうか。本コラムでは、その背景にある要因をデータとともに見ていきます。



コロナ禍で一時的に減少していた理容師・美容師の国家試験合格者数が回復傾向にある背景には、下記が考えられます。

まず、コロナ期に減少していた進学・受験の反動が挙げられます。社会活動の正常化に伴い、理美容専門学校への入学者数が回復し、その結果として国家試験の合格者数も増加しています。実際に、公益財団法人理美容教育センターのデータによると、美容科の入学者数は**2025年に約2万0467人となり、18年ぶりに2万人を超える水準**となりました。

さらに、理容分野では**メンズ美容市場の拡大も人材増加の要因の一つ**と考えられます。理容科の入学者数は6年連続で増加しており、2023年以降は3年連続で1,000人台を維持しています。近年は**バーバースタイルの再評価やメンズ美容市場の拡大**などにより、理容の職域が広がりつつあり、こうした動きが理容志望者の増加を後押ししている可能性があります。

出典:理美容ニュース

参考:

「ホットペッパービューティー」における最新のメンズヘアスタイルランキングでは、2、3位にバーバーサロンのスタイルがランクインしています



出典:ホットペッパービューティー ヘアスタイルランキング(メンズ)
2026年3月2日時点

人材の回復は、理美容業界が次の時代へ進むための土台とも言えます。これからどのような働き方やサロンの形が生まれていくのか、その動きにも注目が集まりそうです。

理容所・美容所
2023年～2025年 7月～9月
過去3年開業数比較

全国理美容開業数ランキング/2023年～2025年

次に、2023年～2025年の3年間における、7月～9月の全国の理美容開業数を比較してみました。以下のような結果となりました。

理美容 / 7月～9月開業数				
都道府県	3年間合計	2023年	2024年	2025年
全国	3737	1274	1308	1155
1 東京都	623	248	189	186
2 大阪府	393	116	161	116
3 神奈川県	219	73	74	72
4 福岡県	170	56	41	73
5 兵庫県	158	58	57	43
6 埼玉県	151	38	67	46
7 北海道	146	39	64	43
8 千葉県	144	50	44	50
9 愛知県	124	32	52	40
10 静岡県	91	37	30	24
11 岐阜県	79	26	28	25
12 宮城県	76	26	27	23
13 広島県	76	28	25	23
14 京都府	64	26	26	12
15 茨城県	61	21	19	21
16 長野県	61	16	28	17
17 新潟県	59	18	22	19
18 三重県	57	27	13	17
19 鹿児島県	57	18	24	15
20 栃木県	55	9	26	20
21 群馬県	53	18	15	20
22 大分県	53	22	15	16
23 沖縄県	52	6	27	19
24 熊本県	48	22	12	14
25 奈良県	44	16	13	15
26 香川県	40	11	16	13
27 石川県	39	9	19	11
28 福島県	38	16	10	12
29 長崎県	38	9	13	16
30 滋賀県	37	14	14	9
31 山口県	36	17	9	10
32 愛媛県	36	13	12	11
33 宮崎県	35	12	14	9
34 山形県	33	9	10	14
35 岡山県	33	17	5	11
36 富山県	32	15	14	3
37 和歌山県	32	14	7	11
38 青森県	30	11	13	6
39 秋田県	24	7	6	11
40 徳島県	24	8	8	8
41 佐賀県	22	8	6	8
42 福井県	21	9	9	3
43 山梨県	19	7	5	7
44 岩手県	18	9	5	4
45 鳥取県	17	7	5	5
46 島根県	15	4	8	3
47 高知県	4	2	1	1

※3年間の開業数合計が多い都道府県順に表示しております。

【理・美容所別】全国理美容開業数ランキング/2023年～2025年

次に、2023年～2025年の3年間における、7月～9月の全国の理容所・美容所別の開業数を比較してみました。以下のような結果となりました。

理容所 / 7月～9月開業数				
都道府県	3年間合計	2023年	2024年	2025年
全国	370	112	129	129
1 東京都	52	17	19	16
2 大阪府	31	8	11	12
3 北海道	29	3	14	12
4 兵庫県	29	12	10	7
5 埼玉県	17	4	9	4
6 福岡県	16	3	6	7
7 沖縄県	15	2	5	8
8 千葉県	14	7	1	6
9 神奈川県	14	7	3	4
10 茨城県	10	4	0	6
11 広島県	10	2	4	4
12 宮城県	9	4	3	2
13 青森県	8	3	4	1
14 愛知県	8	1	4	3
15 静岡県	6	1	3	2
16 京都府	6	3	2	1
17 熊本県	6	2	0	4
18 福島県	5	2	1	2
19 群馬県	5	1	2	2
20 愛媛県	5	1	3	1
21 大分県	5	0	3	2
22 富山県	4	1	3	0
23 山梨県	4	0	2	2
24 三重県	4	2	1	1
25 滋賀県	4	3	1	0
26 山口県	4	1	1	2
27 徳島県	4	0	3	1
28 宮崎県	4	1	0	3
29 鹿児島県	4	1	2	1
30 栃木県	3	0	2	1
31 新潟県	3	1	0	2
32 岐阜県	3	0	1	2
33 和歌山県	3	1	1	1
34 島根県	3	1	1	1
35 岡山県	3	2	0	1
36 高知県	3	2	0	1
37 長崎県	3	1	0	2
38 秋田県	2	1	1	0
39 山形県	2	0	1	1
40 奈良県	2	1	1	0
41 鳥取県	2	2	0	0
42 香川県	2	0	1	1
43 岩手県	1	1	0	0
44 石川県	1	1	0	0
45 福井県	1	1	0	0
46 長野県	1	1	0	0
47 佐賀県	0	0	0	0

美容所 / 7月～9月開業数				
都道府県	3年間合計	2023年	2024年	2025年
全国	3367	1162	1179	1026
1 東京都	571	231	170	170
2 大阪府	362	108	150	104
3 神奈川県	205	66	71	68
4 福岡県	154	53	35	66
5 埼玉県	134	34	58	42
6 千葉県	130	43	43	44
7 兵庫県	129	46	47	36
8 北海道	117	36	50	31
9 愛知県	116	31	48	37
10 静岡県	85	36	27	22
11 岐阜県	76	26	27	23
12 宮城県	67	22	24	21
13 広島県	66	26	21	19
14 長野県	60	15	28	17
15 京都府	58	23	24	11
16 新潟県	56	17	22	17
17 三重県	53	25	12	16
18 鹿児島県	53	17	22	14
19 栃木県	52	9	24	19
20 茨城県	51	17	19	15
21 群馬県	48	17	13	18
22 大分県	48	22	12	14
23 奈良県	42	15	12	15
24 熊本県	42	20	12	10
25 石川県	38	8	19	11
26 香川県	38	11	15	12
27 沖縄県	37	4	22	11
28 長崎県	35	8	13	14
29 福島県	33	14	9	10
30 滋賀県	33	11	13	9
31 山口県	32	16	8	8
32 山形県	31	9	9	13
33 愛媛県	31	12	9	10
34 宮崎県	31	11	14	6
35 岡山県	30	15	5	10
36 和歌山県	29	13	6	10
37 富山県	28	14	11	3
38 青森県	22	8	9	5
39 秋田県	22	6	5	11
40 佐賀県	22	8	6	8
41 福井県	20	8	9	3
42 徳島県	20	8	5	7
43 岩手県	17	8	5	4
44 山梨県	15	7	3	5
45 鳥取県	15	5	5	5
46 島根県	12	3	7	2
47 高知県	1	0	1	0

※3年間の開業数合計が多い都道府県順に表示しております。

見えてきた時間構造——2025年の開業減少はいつ起きたのか

前章で述べた通り、2025年の理美容開業数において最も特徴的な動きは、

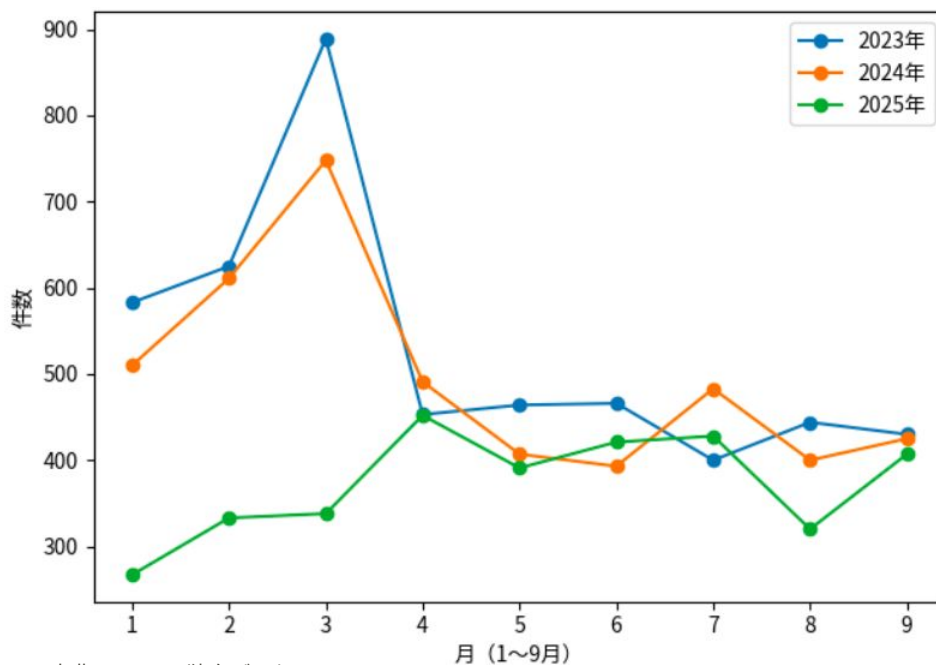
【美容所における8月の大幅な減少】でした。

過去3年の7～9月の合計開業数を比較してみても、2025年は減少傾向です。

では、月別での推移はどうなっているのでしょうか。

この章では、さらに、過去3年間ににおける1～9月までのデータを分析し、その動きを深掘りしていきます。

【過去3か年比較】 理美容所 月別開業数 1月～9月



出典:Review独自データ

前回のレポート(ver5)では、2025年1～3月の理美容開業数が前年から大きく減少し、結果として約半減する水準となったことを報告しました。

このため、2025年の開業市場は大きく縮小したようにも見えますが、本レポートと追加データを用いて1～9月の推移を3年間で比較すると、異なる構造が見えてきます。

実際には、**2025年の開業数の落ち込みは主に年初(1～3月)に集中しており、**

4月以降は、8月を除いて、過去2年と同程度の水準まで回復しています。

そのため、2025年の開業市場は年間を通して縮小したというよりも、年初に大きく落ち込み、その後は平常に近い水準へ戻ったという構造であると考えられます。

全国減少の裏側——地方都市が押し下げた開業数

前章では、2025年の理美容開業数の減少が全国一律の現象ではなく、東京都では比較的安定した動きが見られることを確認しました。

では、全国の開業数を押し下げているのはどの地域なのでしょう。



減少に大きく寄与した地域とは？

2023～2025年の1～9月の理美容開業数(都道府県別)*を比較すると、開業数の減少は特定地域に集中していることが分かります。特に2024年から2025年にかけては、いくつかの地方都市で開業数が大きく減少しており、これらの地域が全国の減少を押し下げている構造が確認できます。

*出典:Review独自データ

減少寄与ランキング (2024→2025)

※対象：理美容合計（美容所＋理容所）

※期間：1～9月

順位	都道府県	2024年1～9月	2025年1～9月	増減（寄与度）
1	大阪府	477	308	-169
2	愛知県	240	175	-65
3	兵庫県	201	146	-55

いずれも西日本の大都市圏に位置する地域であり、全国の開業数減少は地方全体で均等に発生しているのではなく、特定の都市圏で強く現れていることが分かります。

また、この結果からもう一つの特徴も見えてきます。

それは、今回の減少が「都市と地方」の単純な対立構造ではないという点です。

東京都では比較的安定した動きが確認されている一方で、大阪・名古屋・神戸といった東京以外の大都市圏で開業数が減少しているため、結果として全国の開業数が押し下げられている構造になっています。

全国減少の裏側——地方都市が押し下げた開業数

地方都市で何が起きているのか

もう一つ注目すべき点として、
地方では開業時期が特定の月に集中する傾向が見られることが挙げられます。

都市部では年間を通じて一定数の開業が発生するのに対し、
地方では新年度や繁忙期前など、特定の時期に開業が集まりやすい構造があります。
これは、**地方では人口や商圈規模が比較的限定的であるため、
開業初期の集客状況が事業の立ち上がりに影響しやすく、
タイミング選定がより重要になる傾向があるため**と考えられます。
そのため、特定月の開業数が減少すると、その影響が年間の開業数にも反映されやすくなります。

実際に2025年は、年初の開業数減少に加え、8月にも開業数の落ち込みが確認されており、こうした月次の変動が重なったことで、地方では年間の開業数にも影響が及んだ可能性が考えられます。

まとめ

2025年の理美容開業数の減少は、全国一律に発生しているわけではなく、大阪府・愛知県・兵庫県といった都市圏での減少が全体を押し下げている構造が確認できました。

また、地方では開業数の母数が小さいため、年初の減少や月次変動の影響を受けやすく、結果として全国の開業数に強く影響する傾向があります。

このことから、2025年の開業数減少は「地方全体の縮小」というよりも、特定地域の落ち込みが全国値に反映されている現象と見ることができます。





全国理美容開業ランキング レポート ver6 まとめ

開業数の変化から見える、理美容市場の地域構造

本レポートでは、2025年7～9月の理美容開業データについて、過去3年間と比較しながら開業動向を分析しました。

2025年は8月に開業数の大きな減少が見られましたが、その一方で、7月や9月の水準は過去3年と大きく変わらず、開業数そのものが急激に縮小しているわけではないことも確認できました。

この現状を地域別にひもとくと、

東京都では比較的安定した推移が続く = 「東京だけ正常」

開業数減少を押し下げているのは主に地方 = 「東京 vs 全国」

という構造も見えてきます。

こうした結果から見えてくるのは、理美容業界の開業動向が全国一律に変化しているのではなく、都市と地方、そして東京とそれ以外の都市圏という地域構造の違いによって大きく左右されているという点です。

開業数の減少は必ずしも業界全体の縮小を意味するものではなく、働き方や開業スタイル、地域ごとの市場環境の違いが反映された結果とも言えます。

今後の理美容市場を理解するうえでは、単純な開業数の増減だけでなく、**どの地域で、どのタイミングで開業が行われているのかという地域構造の変化**を継続的に捉えていくことが重要になるでしょう。

理美容業界は、静かに次の時代へ進んでいる

これからの理美容業界では、
店舗数の増減だけでは測れない、
新しい価値の生まれ方が広がっていく可能性があります。

**地域の特性や市場環境に合わせてながら、
それぞれのスタイルで働き方やサービスを選び、価値を生み出していく**

これこそが、業界の大きな魅力になっていくのではないのでしょうか。

変化の中にある今、
理美容業界は次の時代へと進んでいるのかもしれませんが。

本レポートが、理美容業界に関わる皆さまにとって、
全国各地の動向や地域の可能性を感じていただくきっかけとなり、
これからの一步を考えるヒントとなれば幸いです。

変化の時代にある理美容業界とともに歩みながら、
Reviewはこれからも、データや情報を通じて
皆さまのビジネスと日々の活動を支える取り組みを続けてまいります。

業界のさらなる発展と、新しい挑戦が各地で生まれていくことを願っています。

【データ・レポートに関するお問い合わせ】

株式会社Review(リビュー) 広報

担当:五味川

E-mail: gomikawa@re-view.co.jp

<https://re-view.jp/>

Re:view